

令和4年1月26日

みなかみ町  
総合戦略課企画政策係

## 令和3年度みなかみシェアサイクル実証実験 最終報告

### 実証実験概要

みなかみ町は、水上温泉街及び周辺観光施設において、観光客や地域住民の交通手段を確保し、回遊性を高めるため。また実証実験として利用状況等を把握し、シェアサイクル導入の可能性を調査するため、令和3年(2021)10月15日から令和3年12月12日までシェアサイクルの実証実験を実施しました。

実施エリア：JR水上駅から温泉街中心部

設備：サイクルポート5箇所、電動自転車22台、サイクルラック36台分

ポート：JR水上駅、源泉湯の宿松乃井、みなかホテルジュラク、ふれあい交流館  
道の駅 みなか水紀行館

利用方法：スマートフォン等を利用し、専用アプリからポート情報の確認、貸出、返却及び支払いを行う。どのポートからでも貸出、返却が可能

調査期間：令和3年10月15日(金)～12月12日(日)

料金：最初の30分まで無料 以降50円/30分 800円/12時間上限

実施体制：実験実施主体/みなかみ町 運営会社/ecobike株式会社

### 利用状況

1. 実証実験期間(10月15日～12月12日の58日間)の利用回数は合計378回であり、1日あたり約6.5回の利用があった。
2. 全トリップ数のうち75%が「JR水上駅」を起着点とした利用であり、公共交通機関の補完機能を果たしていると考えられる。
3. トリップパターンでは、駅⇄宿泊施設の利用が最も多く、観光の目的に加え、宿泊施設の従業員の通勤利用が多かったことが分かる。
4. 月別の利用平均時間は、平日はほぼ横ばいに推移し、休日は10月の24分に比べ、35分/11月、54分/12月と約1.5～2.25倍に伸びていった。

### アンケート

本格導入に向けての有効性と課題の検証を目的とし、調査期間内にみなかみ町を利用地域に登録した会員を中心に、利用の有無に関わらずアンケートを行った。

1. 回答者の年齢は、20～50代が80%と最も多く、男性が約77%であった。
2. 住まいの地区は、「旧水上地区」が約38%と最も多く、次いで「群馬県内(みなかみ町を除く)」が約27%、「群馬県外」が約23%であった。
3. 利用目的は、「観光」が72%と最も多く、次いで「通勤・通学」、「買い物などの日常利用」、「近隣飲食店への交通手段」が17%であった。

4. シェアサイクルによって期待される行動として、94%の人が「行動範囲が広がると思う」、56%の人が「観光の幅が広がると思う」、44%の人が「街に来訪する機会が増えると思う」と回答した。
5. 「ecobike アプリ」、「貸出・返却」、「料金」「自転車数」の項目については、8~9割の人が「満足」と回答したが、「サイクルポート数」と「サイクルポートの場所」では、約17%やや不満と評価した。
6. シェアサイクルを利用しなかった（できなかった）人は、75%が「興味はあったが利用機会がなかったから」、次いで38%が「アプリなどの使い方が分からなかったから」と、利用しなかった（できなかった）理由を挙げた
7. 今後ポートを増やして欲しい場所では、「上越新幹線 上毛高原駅」が54%で最も多く、次いで「JR 後閑駅」「JR 土合駅」と、駅周辺を希望する意見が多かった。
8. 今後利用できる（利用回数が増える）支援については、「ポートの増設、エリアの拡大」が73%で最も多く、次いで「自転車が乗りやすい道路の整備」が42%であった。
10. 約96%とほとんどの方が、今後もシェアサイクルを利用したいと回答した。

## 実証実験の総括

### ■実証実験の評価

#### 1. 利用者の評価

利用開始から順調に会員数を伸ばし、1日あたり約6.5回の利用があった。今後の利用については96%の人が「利用したい」と回答したことから、利用者には好評のサービスであったと言える。

#### 2. 公共交通の機能補完の役割

「JR 水上駅」を起着地とする利用が75%を占めており、駅から目的地までの移動手段として、公共交通の機能補完の役割を果たしたと考えられる。

#### 3. 観光に有効な移動手段

利用目的については観光が約7割を占めており、交通手段が限られる観光客の足として有効な手段だと期待される。

#### 4. シェアサイクルによる地域活性化

シェアサイクルの利用によって「行動範囲が広がる」、「観光の幅が広がる」という回答が多く、新たな流動が生まれていると考えられる。今回の目的である「回遊性を高める」効果が期待される。

### ■今後の課題・方向性

#### 1. ニーズに応じたサイクルポートの拡充

利用者アンケートの「今後どのような支援があれば利用できる（利用回数が増える）か」について、約7割の人が「ポートの増設、エリアの拡大」と回答しており、駅前ポートや谷川岳の充実を求める声が多かった。このようなニーズに応じたサイクルポートの拡充が必要である。

#### 2. 利用実績

コロナ禍で観光客が少ない状況であったが、平日・休日ともに安定した利用があった。今後ポートの増設や、継続した事業展開をしていくためには、さらに利用回数と利用時間を伸ばしていく必要がある。サイクルポートによっては、自転車の回転率に差があったため、利用頻度の高いポートに自転車台数を増やすなど、さらなる検討が必要である。

#### 3. 週末、休日中の自転車台数の管理

観光目的の需要が多いため、観光客の集中する週末や休日にかけて自転車の台数の動きが大きい。自転車の台数不足での利用機会損失や、返却可能なポートが不足する状況を防ぐため、台数調整の精度の向上や再配置方法の仕組みを検討する必要がある。